



特集:多文化共生時代の現状と今後

◆はじめに

わが国の外国人登録者数は、近年急激に増加し、2005年末には、200万人を超えました。

これは、1980年代後半からの日本の経済発展及び少子高齢化に伴う労働力不足を背景に、企業・財界の要望に応える形で、平成元年に「出入国管理及び難民認定法(入管法)」が改正され、日系人とその家族(日系三世までとその配偶者)に就労制限のない在留資格が付与された事、また、「外国人研修制度」が開始されたことが、その大きな理由と考えられます。

世界のグローバル化および日本の人口減少の傾向を勘案すると、今後も、外国人住民の割合は、さらに増加が見込まれています。また、日系人に限って言えば、従来は「一時的な労働者」として見られる事も多かったのですが、現在では、定住化志向が進んでいるといわれています。

このような中で、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的差異を認め合いながら、地域の構成員として共に生きていくという“多文化共生”の地域づくりを推進する必要性が増しています。

地方の公共団体や、国際協会等においては、1980年代後半から「国際交流」と「国際協力」を柱として、地域の国際化を図ってきましたが、今後は、「地域における多文化共生」を3つ目の柱として、地域の国際化を一層推し進める事が求められています。

◆統計から見た外国人の現状

各務原市では、H19年1月1日現在、総人口149,476人のうち外国人登録者数は、4,057人で、人口に占める外国人登録者の割合は、2.71%となっています。また、当市では、外国人登録者の中で、最も多いのは、ブラジル人で1,959人、ついで中国人701人となっています。

岐阜県内の他の市町村でも外国人登録者数は増えており、H18年4月時点で、最も外国人登録者の割合が高いのは、美濃加茂市で9.8%、ついで可児市が6.4%に上っています。(図表①)

図表①—外国人登録者数の分布

[H18.4 県国際課調べより]

	総数	人口比 (%)	ブラジル	中国	フィリピン	韓国・朝鮮	ペルー	その他
各務原市	3,925	2.7	2,006	583	368	490	191	287
岐阜市	9,078	2.2	231	4,325	1,564	1,817	40	1,101
大垣市	6,910	4.3	4,480	1,240	283	470	177	260
可児市	6,281	6.4	4,581	151	1,025	287	51	186
美濃加茂市	5,146	9.8	3,651	253	938	119	97	88
関市	2,083	2.3	808	928	117	85	2	143
県計	51,931	2.5	19,693	14,916	6,293	6,155	1,050	3,824

◆多文化共生の教育

一時滞在の外国人児童生徒は、平成17年度の全国で20,692人でした。そのうちの7割は小学生です。母語別の児童生徒数で、最も多いのは、ポルトガル語を話す児童生徒で、7,562人となっています。児童の中には、言葉の壁や習慣の違いから学校に馴染めず、不就学・不登校になるケースもあり、日本語を教えたり、日常の簡単な生活の疑問が解決できるような場や人材が必要になっています。

◆災害時における外国人支援

日本語によるコミュニケーションが困難である外国人住民は、災害時に必要な情報を得ることが難しいと考えられ、「災害時要援護者」(または、災害弱者)として考えられています。外国人の中には、特に、地震に対する経験がほとんどない場合もあり、日本に特有の災害について対処の仕方や、避難の方法を周知させる事が大切です。このためには、日頃から、多文化共生の街づくりを通じて、外国人住民とコミュニケーションを深めておく事が必要されています。

◆今後の各務原国際協会の多文化共生事業(予定)

多文化共生時代を迎え、各務原国際協会では、定住化傾向にある外国人と日本人の共生を目的に、下記のような事業を予定しています。

- ・各務原広報紙のポルトガル語版作成・配布
- ・日本語講座の開催(日本語以外を母国語とする人を対象)
- ・外国人を対象に、日本語を教えるボランティア制度の創設
- ・外国人を対象に、防災の啓発、災害時のボランティア活動を行う制度の創設 など

◆「多文化共生時代に向けて」

市の国際交流職員として勤務しております、木村マウロと申します。ブラジルの主要都市、サン・パウロ市から来た日系2世です。

私は、主に通訳・翻訳・海外の情報提供・共生を促進するイベントの開催などを行っています。税金・保険・暮らしのさまざまな分野にわたり、約2,000人のブラジル籍市民、約200人のペルー籍市民、約400人のフィリピン籍市民、その他英語が話せる外国籍市民の相談にのっています。1人1人対応するのが理想ですが、限界を感じる時もあります。今は、中国語を覚えてサポートができれば、と考えています。

少子高齢化社会の到来等による労働力不足によって、これからも外国人労働者は増加すると思われ、現在では外国人労働力も、日本の経済を支える大きな柱となっています。このような新しく来た外国の方々と日本人が、うまく共生していけるように支援する事が、私の重要な役割だと思っています。

外国籍市民が増えることで、多様な文化が彩る、もっと素晴らしい各務原市になりますよ！

(参考文献) 自治体国際化フォーラム 201、203、207号 (財)自治体国際化協会 発行
岐阜県多文化共生推進基本方針 平成19年2月 岐阜県発行



「総合学習」授業で、ブラジルの学校について紹介する木村マウロさん(市内の小学校にて)

◆各務原国際協会が、設立より20周年を迎えました

各務原国際協会会長
後藤悦男

当協会が設立されてから、20周年を迎えました。この間、協会の運営ならびに各種事業の推進にあたり、協会会員の皆様をはじめ、市関係者、市民の皆様のご協力を頂き、心から厚く御礼申し上げます。

これからも青少年をはじめとした各務原市民の国際理解を深め、国際人育成に協力、国際交流を通して、活発な国際交流都市づくりを目指し、努力して参ります。今後とも当協会に対し一層のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1、設立時の情勢について

当時、わが国における国際化の進展はめざましく、各務原においても、地域の特性を生かした国際化への取り組みが急務となっていました。

そこで、長期的な展望にたち地域に根ざした国際交流を推進する為に設立されたのが、各務原国際協会です。

1986年(昭和61年)12月12日に設立されました。



協会設立当時の写真(総会)'86年

2、シンボルマーク

シンボルマークを募集したところ、市民から260点の応募があり、各務原市在住の土屋雅弘さんの作品が選ばれました。各務原のKをシンボル化、楕円は地球(常に動きゆく世界)を意味し、Kによって分けられた部分(水色)は世界の一部として各務原を主張する信頼感、知性を感じさせる藍色と、清潔感のある水色が使われています。(昭和62年選定)



3、協会の活動

当時の会員数は、個人会員273名、法人会員数70名でした。講演会が中心に行われていた当時と比べると、現在の当協会の活動は、各種語学講座・料理講座・国際交流サロンの設置・各種海外派遣事業の支援等、多岐にわたっています。これもひとえに、ボランティアの皆様はじめ、会員の皆様のご尽力によるものです。これからも当協会に対し一層のご指導・ご支援賜りますようお願い申し上げます。



KIA FAカップサッカー大会 '97年



第1回英語スピーチコンテスト '86年

各務原国際協会への入会方法

各務原国際協会（K I A）は、各務原市民の国際交流における橋渡しを行うべく、皆様のご協力を得て様々な活動を実施しています。

地域の国際化、国際交流、多文化共生事業の進展に向けて、さらに幅広い活動をめざして、皆様のご入会をお待ちしています。

入会方法等は次のとおりです。下記ホームページからの登録が便利です。

(1) 入会資格

各務原国際協会の目的及び事業内容にご賛同いただける個人、会社、団体等

(2) 会員の区分と会費

A. 個人会員 1口 2,000円 B. 法人会員（会社・団体）1口 10,000円

※会員期間は1年間（年度、4月～3月末）

(3) 会員の特典

▽各種国際交流事業等への参加

▽各種情報の提供等（KIA TIMES：随時発行、各種イベントDM：随時）

会員登録フォーム

お名前・団体名	
ふりがな	
会員区分	<input type="checkbox"/> 個人会員 <input type="checkbox"/> 法人会員（会社・団体）
郵便番号	〒
住所	
電話番号	
E - m a i l	

上記必要事項を記入し事務局まで郵送または直接お持ち下さい。FAXでも結構です。
ご登録頂いた情報については、厳重に管理し、漏洩・不正流用・改ざん等の防止に務めます。

発行・お問い合わせ

〒504-8555

各務原市那加桜町1-69 各務原市観光交流課内 各務原国際協会事務局

電話:058-383-1426 ファックス:058-389-0765 E-mail:info@kia1986.org

ホームページ <http://www.kia1986.org/>